

江原幸雄編著「中国大陸の火山・地熱・温泉」

谷口宏充*

Book Review: Volcanoes, Geothermal Fields and Hot
Springs in Continental China by Sachio Ehara ed.

Hiromitsu TANIGUCHI*

今から4年前、始めて中国の長白山^{ちやうはくさん}（日本や朝鮮では白頭山）に行って天池^{てんち}を見た。中国大陸に今でも活動的で噴火をおこす可能性のある火山があることは話や本を通して知ってはいたが、それまで実感することはなかった。しかしカルデラ湖である天池の青い水を見たり、そこから流れ出す二道白河^{にとうはうか}と長白瀑布の白い泡立ち、そしてぶつぶつと騒ぎ立てる長白温泉を見ていると、やはり中国大陸にも熱いまぐまとその活動は今でもあるのだ、と新鮮な感動を覚えた記憶がある。

日本では、中国大陸の火山についてあまり多くは知られていない。中国の火山についてもっと知りたい、と言う希望に応えてくれるのが、地球熱システム学を専門とする江原幸雄氏の編著、地熱貯留層工学の糸井龍一氏、そして地質学の渡邊公一郎氏との共著による今回紹介する本書である。

本書のサブタイトルは「フィールド調査から見た自然の一断面」であり、著者たちと中国吉林大学の金旭教授とによって10数年前から行われた、中国の火山、地熱と温泉についてのフィールドワークの記録と成果とが盛り込まれている。本書は中国の火山、地熱地帯そして温泉を、主として地球熱学の立場から理解し説明しようとしているが、地球化学的な説明も豊富である。

本書を開いてみよう。本書は七つの章より成り立っている。第一章は中国大陸の火山・地熱・温泉と題され、一般の読者を対象とし、文字通りの内容のアウトラインが紹介されている。第二章は中国東北部の地殻熱流量と深部熱構造と題され、編者が金教授とともに取り組んだ研究に基づき、中国東北部における熱流量、地殻及び上部マントルの温度分布、そしてマントル深部の構造に関

する考えとが紹介されている。それ以降の章には活火山を含め、熱的活動の活発な4つの地域が取り上げられている。第三章には平野に聳える火山として、18世紀に噴火した玄武岩質の単成火山群であり中国とロシアとの国境の近くにある五大連池が、第四章には巨大な玄武岩質火山と題して、中国と北朝鮮との国境にあり10世紀の大噴火で有名な長白山が、第五章にはやや古く更新世の玄武岩質火山である内モンゴル自治区の伊爾施^{イルス}火山が取り上げられている。第六章では火山ではなく、チベット^{チベット}の活発な地熱地帯である羊八井^{ヤンパジン}をとりあげている。これらの章を読むことによって、読者はこれら4地域についての地球科学的アウトラインを知ることができるようになっていく。また、地熱徴候のない第三章の五大連池などを除き、いずれも他の地域では地質学、熱学そして地球化学的データをもとにして、地熱活動のモデル化が試みられ、やや詳しく紹介されている。

本書には一般の読者を想定した基礎的事項の説明や、調査中における楽しい話や苦労話など、様々なエピソードも紹介され、中国のやや僻地における人と自然との情景もうかがえる。どちらかと言うと自然に重きを置いた地域研究の書とも受け取ることができる。本書では一般の読者にもわかりやすく、親しみやすい本にしようという努力がなされていることは明らかである。しかし、内容からいって、やはり大学生クラスにふさわしいレベルとなってしまっているのはやむを得ないことなのであろう。定価は1,000円、出版は九州大学出版会（福岡市東区箱崎7-1-146、電話092-641-0515）であり、一部の書店には置かれているが、出版会に連絡して送付してもらうことのほうが確実であろう。

* 〒980-8576 仙台市青葉区川内
東北大学東北アジア研究センター
Center for Northeast Asian Studies, Tohoku University
Kawauchi, Aoba-ku, Sendai 980-8576, Japan.
e-mail: taniguti@cneas.cc.tohoku.ac.jp